

2. 二酸化炭素(CO₂)排出量の把握

本市内のCO₂排出量は、平成24年度で210万7千トン、基準年(平成12年度)比で3.8%減少しています。部門別にみると、民生家庭部門が32.5%、民生業務部門が29.3%、運輸部門が26.2%となっており、全体の約90%近くを占めています。

民生家庭部門と民生業務部門は、基準年(平成12年度)比でそれぞれ20.8%、11.5%増加しており、重点的な対策が必要な状況です。一方、運輸部門においては、CO₂排出量が、基準年比で27.3%減少しています。

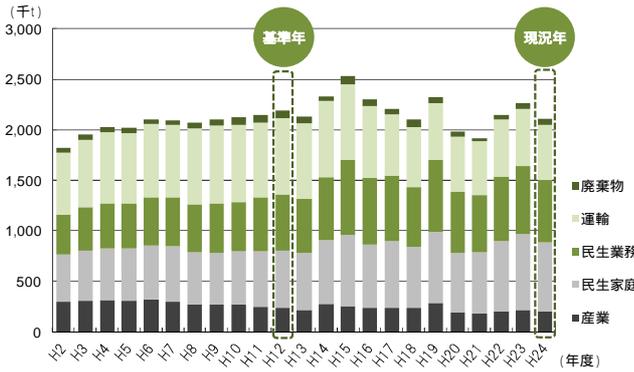


図 市内のCO₂排出量の経年変化

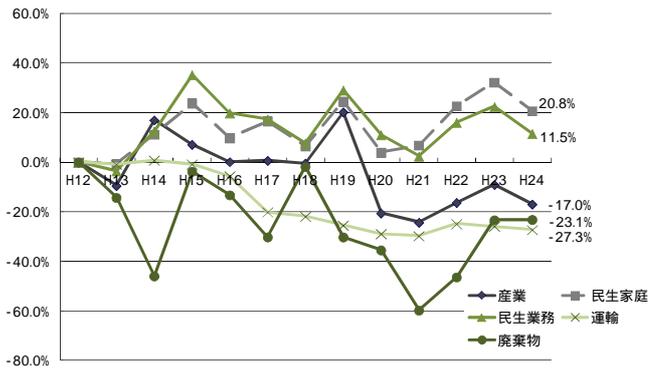


図 市内の部門別CO₂排出量の増減推移(H12基準年比)

出典: 八王子市地球温暖化対策地域推進計画

また、CO₂排出量が増加している民生部門(業務・家庭)について、建物用途ごとに床面積に応じた家電や照明の使用などのエネルギー消費から生じる年間CO₂排出量を推計すると、市全体に占める排出量割合は、中央地域が24.1%、次いで東部地域が21.2%と、都市機能が集積する地域の割合が高くなっています。

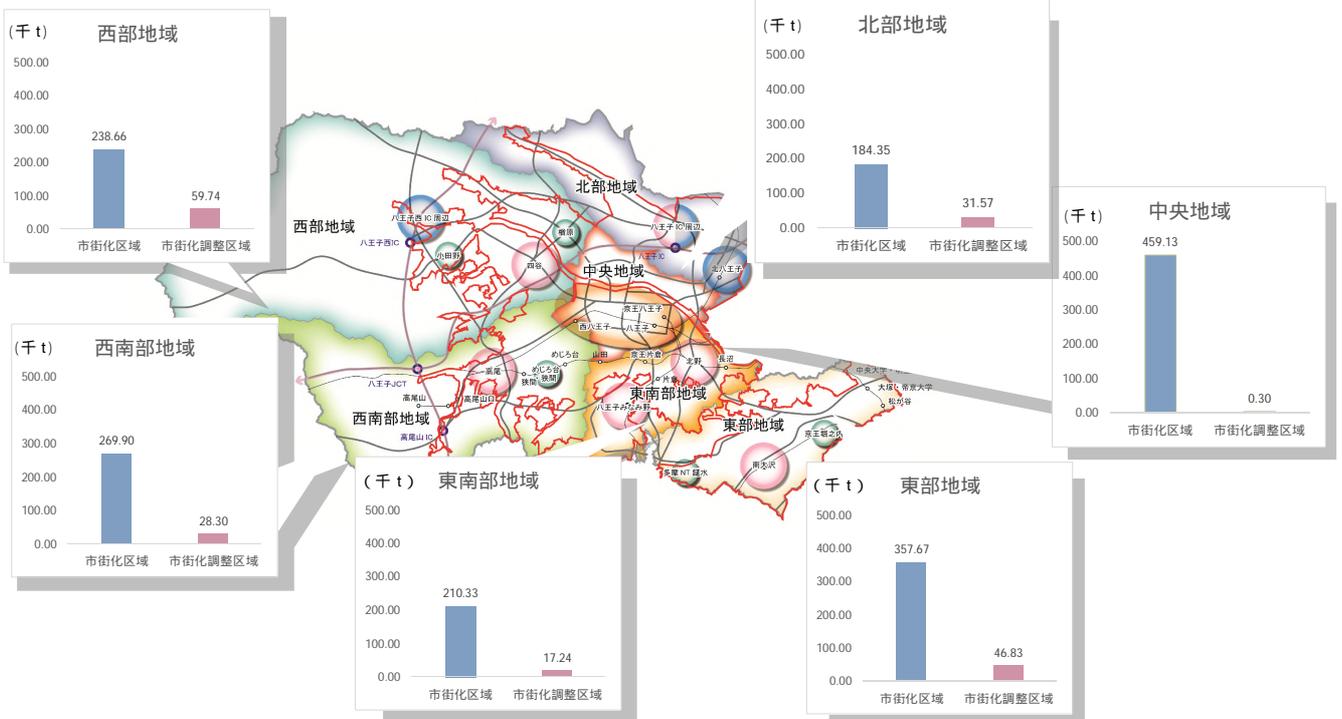


図 地域別の建築物のエネルギー消費から生じる年間CO₂排出量

出典: 東京都土地利用現況調査(H24)及び低炭素まちづくりハンドブック(国土交通省)より推計

3. 都市構造の現況と長期的視点から見た課題

都市構造に影響を与える人口密度、公共交通、都市機能、都市経営、エネルギー消費量、CO₂吸収源について、「都市づくりビジョン八王子(第2次都市計画マスタープラン)」や「八王子市交通マスタープラン」等における都市の分析を踏まえ、現状と平成62(2050)年頃の都市の変容を見据えた長期的視点から見た課題を示します。

(1)人口密度

本市は、昭和 40～50 年代の人口増加により、鉄道沿線や幹線道路沿道などを中心に市街地が拡大し、平成 22 年の DID(人口集中地区)を見ると、面積 6,144ha、人口密度 83.1 人/ha となっています。

一方、将来人口予測を基に平成 62(2050)年の人口密度を推計すると、平成 22 年時点の DID(人口集中地区)の人口密度は 71.9 人/ha に減少し、都市全体に低密度化が進むと予測されます。

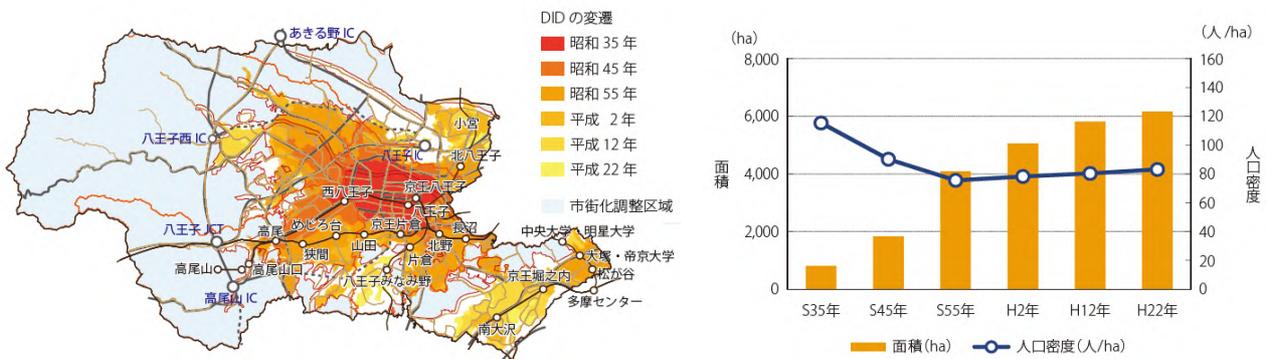


図 DID(人口集中地区)の変遷 出典:国勢調査より作成

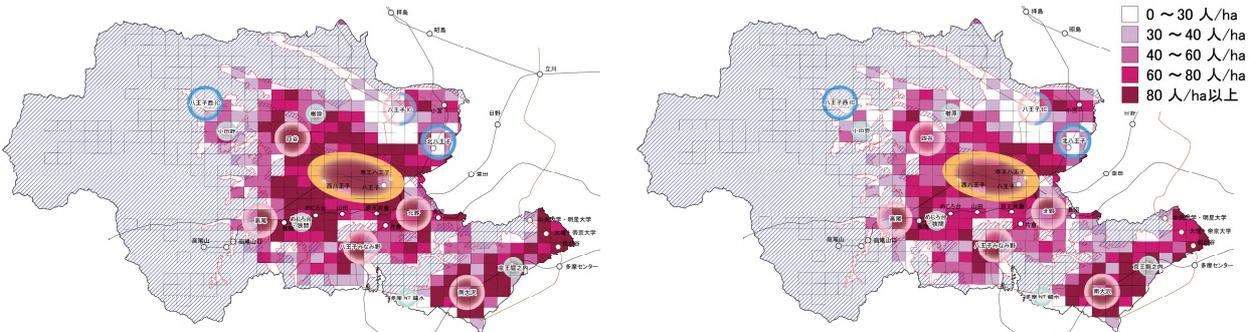


図 平成22(2010)年の人口密度

図 平成62(2050)年の人口密度の推計

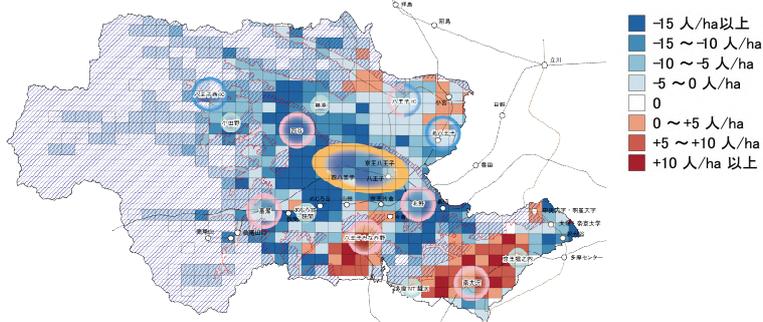


図 人口密度の増減推計(2050年-2010年)

出典:八王子市都市政策研究所「八王子市における将来の人口動態に関する調査」(平成25年)より作成